



第40回 縮小社会研究会

これまで資源エネルギーの制約などより縮小の必然性を論じて来ましたが、今回は民主主義や人権という観点から縮小社会を考えてみたいと思います。

時：2017年10月14日（土）13時より

所：同志社大学 烏丸キャンパス 志高館 SK110

烏丸今出川交差点より北に500m、（今出川キャンパスより200m北に離れています）

http://global-studies.doshisha.ac.jp/access_map/access_map.html

参加登録：http://confreg.ate-mahoroba.jp/confreg?conf_idstr=ExQ3EIAIX7gIL496aWy7Ss8LI972

参加費：会員は無料、非会員は500円

講演1. 13:00-14:00 「縮小社会と民主主義」

石田靖彦（縮小社会研究会理事）

すべての社会問題は正義の問題である。縮小社会の究極の目的も正義の社会（あるいは真の民主社会）の実現であり、また、正義がなければ縮小社会も実現しない。今回は、縮小社会における民主主義のあり方について考察する。



講演2. 14:10-15:10 「多様化する縮小社会と民主主義の概念について -問われている21世紀社会の課題-

三石博行（縮小社会研究会理事、政治社会学会理事長）

環境・資源問題を契機に問われ続けて来た成長の限界・縮小社会化への過程とは、ある意味で21世紀社会が解決しなければならない一つの大きな課題となっている。我々はこれまで人類が見出していない新しい社会・経済・文化・生活思想の形成とそれに基づく社会文化経済制度の構築を目指さなければならない。まず、これまでの社会文化、とりわけ人権、民主主義、平和の社会思想の発展を前提にしながら、この課題を検討する作業が必要である。そして、これが今後の長く困難なテーマへの入り口となる。今回、ここでは、多様な縮小社会の概念、その根底を支える社会・経済・政策学の在り方を述べてみたい。



講演3. 15:20-16:50 「《脱成長》を目指す世界の多様な運動」

菊池恵介（同志社大学グローバル・スタディーズ研究科 教員）

この有限な地球で無限の成長を続けることはできない。それでは縮小社会への移行に向けて、いま私たちに何ができるのか？ フランスで100万人の観客を動員したドキュメンタリー『Tomorrow パーマネントライフを探して』を手掛かりに、「脱成長」を目指す世界の多様な運動について考える。



自由討論 17:00-17:30

懇親会：18:00-19:30

（芙蓉園（烏丸今出川）3000円）

一般社団法人 縮小社会研究会

〒606-8227 京都市左京区田中里ノ前町21 石川ビル305

e-mail: jimukyoku@shukusho.org

HP: <http://shukusho.org/>